

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	B	<p>【全体として】 係・業務分担の垣根を越えた「共助の風土」が醸成されてきている。絶対的人数が限られる中、今後もこの方向性を推進し、組織の力を強くしていくことに繋げていきたい。</p> <p>【生徒課】 文化祭を、常葉大学水落キャンパスと同日開催で行うなど、大きな学校行事が昨年よりも充実して<u>生徒の満足度が高かった</u>。一方、本年度の反省を踏まえ、次年度は段取りを明確にし、共有することで円滑に進められるようにしたい。 令和8年度から、自転車「青切符」制度が導入されるため、自転車マナーをより徹底していきたい。</p> <p>【教務課】 業務については、分掌内でよく連携が図れていた。 成績管理システムが刷新され、運用の仕方などの周知に大いに協力ができた。 時間割作成では、イレギュラーなことが多く、作成に苦勞することが多かった上、全体のバランスをとることが難しかった。 特別時間割を作成する際、非常勤講師への連絡不足があったので、適切な伝達を行いたい。 定期試験受験者の報告をフォーム回答し、業務負担の軽減につながった。</p> <p>【進路課】 次の進路でも活躍するために、自己を知り、主体的に学習する態度を養うことを目標にしてきた。 一人一人の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>全体としては、常葉大学への進学は55%近くに上ったが、GTZは横ばい、難関大学進学は増えていない。 看護系専門学校進学も数は少ないが堅調であった。 どんな進路に進むにしても<u>学習意欲・習慣は必要なことである</u>ので、進路行事や情報の提供を通して生徒たちの進路意識を高めていきたい。 偏差値が高い大学が高い目標ということでないが、成績上位層に対しては、国公立大学や難関大学へ果敢にチャレンジさせたい。 共通テストは、自己採点がWebでの実施になり、進路に関する環境も常に変化している。教員も最新の進路情報を積極的に得ていく必要がある。</p>	<p>自転車の乗り方について、「青切符」制度が始まることをうけ、通学のためだけでなく、休日に自転車を利用することもあるでしょうから、広く注意を促してほしい。</p> <p>警察からのパワーポイントなどで生徒や保護者にわかりやすく注意事項を見せられるといいのではないのでしょうか。 →自転車通学者には、中央警察署の方に来ていただき、講話をお願いしました。生徒は真剣によく聞いていました。5月にも交通安全教室を実施します。</p>
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	B	<p>【全体として】 組織内で双方向のコミュニケーションを十分にとることが大切だと感じる。</p> <p>【高校1年】 全体で情報共有し、落ち度なく進められた。<u>全クラスで協力して同一歩調で進められ、とても良い学年の雰囲気を作ることができた</u>。 学年主任の意向をよく理解し、学年における教育活動の実践をクラスの生徒に対して行うことができた。 学年全体で目的や思いが共有できるよう、学年会議や日常の中で教員で共有したこと、授業で生徒と共有するように心がけて取り組めた。 <u>学年通信をもっと頻繁に発行したかった</u>。 副担任として、担任のフォローは十分できたと思う。</p> <p>【高校2年】 毎週の学年会議の計画と話し合いに必要な資料をつくり、担任のフォローを行ってきた。 今年度は様々なことで意見の食い違いが生じていた。その原因は「<u>コミュニケーション不足</u>」にある。 今後は事前の認識合わせや判断基準の明確化を進め、個々の裁量を尊重しつつも、学年としての一貫性を保つことで、より安定した指導体制を構築していく必要がある。</p> <p>【高校3年】 学年部では主に教務の内容を担当したが、風通しも良く、気持ち良く仕事をすることができた。<u>相談しやすい雰囲気というのはかなり重要であると感じた</u>。 目的的に逆算した教育活動ができるとなお良かったと感じる。 学年団の統制や進路実現に向けての指導の点に置いて、3年部は協力体制がしっかりできていた。</p> <p>【中学】 それぞれの学年での学校行事や探究学習、進路指導などで、学年ごとに役割分担をして取り組むことができた。 学級内での人間関係を重視し、諸活動における組み合わせや座席などを配慮した。<u>他学年との連携を行い、情報共有をしながら運営することができた</u>。 中学は現状においても「チーム担任制」のようなもので、全学年関わることができて動きやすい環境にある。</p>	<p>学校説明会や学校行事に参加した時には、コミュニケーションが職員間で不足しているようには感じられませんでした。伝達の仕方や、相談しやすい雰囲気は職員間、生徒と教員の間どちらにも大切なことです。 →言ったつもりや、ここまで伝えてあれば理解してもらえるだろうという思い込みから、行き違いが発生することがあります。令和8年度は学年主任者会議を行い、連絡を密にできるようにしていきます。</p> <p>コミュニケーション、協同は学校教育で大事なことだと思います。</p>

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上), B:ある程度達成できた(60%程度), C:あまり達成できなかった(40%程度), D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	3	コース・系列運営	コース・系列組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	B	<p>【全体として】</p> <p>取り組むべきミッション(連携講座・探究活動)が多く、担当者も混乱することがあった。探究活動の任された業務の目的や仕組みについて、理解が十分でなく、年間スケジュールを十分に理解し、計画的な運営ができるとよかった。主任や担当教員と相談し合いながら、探究活動や連携講座を進めている。次年度のシラバスづくりも、よりよいものを作るという視点で動いているが、自分以外の担当の活動内容はよくわかっていないのが現状ではないかと思われる。全体像の共有化が必要である。</p> <p>【看護・医療・健康系列】</p> <p>探究活動は、日程調整や外部との連携がとても難しい。</p> <p>【保育系列】</p> <p>今まで保育コースとして続けてきた伝統を守ることができていなかった。経験したことない教員にどのように継承していくかを今後検討していきたい。</p> <p>【総合進学系列】</p> <p>地域探究のコースで行う授業の準備や計画発表について、資料をつくり取り組むことができた。常葉大学進学コースは、多くの生徒が常葉大学へ進学している点に強みがある。</p> <p>【特進コース】</p> <p>進路指導、探究活動における指導、小論文対策、NIE教育、各学期に行う補習等、特進コースとしてプラスの活動を実施した。探究活動では、1・2年生を対象に授業を実施し、静岡県高校生探究フェスタへの参加まで行わせることができた。次年度は多くの生徒が意欲的に取り組むことができるよう頑張らせた。</p> <p>特進高2を対象に進路ガイダンスを行い早期から進学について意識をさせることも行った。しかし、継続的な指導が必要であり、個別対応が必要がある。学校内で情報の共有を行い、進路実現のために連携を図り努力させていく必要性を感じた。</p> <p>特進の特色を生かした教育活動がなかなか達成できなかったと感じる。</p> <p>静岡地方検察庁や静岡市議会との意見交換会(どちらも3年連続)を行ない、生徒の「主権者意識」を高めることができた。</p>	特に質問・意見はありませんでした。
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p>【全体として】</p> <p>学習習慣の確立と、苦手克服につながるような取り組みを、教科と学年で協力して啓発することを軸に取り組んだ。授業はもちろん、学校説明会や入試検討会など多岐にわたる業務にも丁寧に対応してきた。それぞれが役割を自覚し、連携を図っていた。今後は業務の整理や分担の工夫を進め、教科指導の質を維持・向上させていくことが求められる。教科会議をはじめ普段のコミュニケーションをこまめにとりながら、進めるよう努力した。</p> <p>【国語】</p> <p>教科主任の力量に依るところがまだまだ大きい。自発的な提案をし、業務を推進する場面はまだ少ないと感じる。</p> <p>【数学】</p> <p>非常勤まで回覧を回すなど工夫して、情報共有をすることができた。毎日の授業を大切に、生徒一人ひとりのわからない内容を把握し、対話的に解決できるよう心掛けた。また、数学の補講を行い、<u>学力の伸長を図ることができた。</u></p> <p>数学検定を年間に2回実施し、数学への学びの意欲向上につなげることができた。教科内で困っていることがあれば、積極的に関わろうという気持ちを持って業務にあたることができた。</p> <p>【英語】</p> <p>「ディスカッションができる生徒を育てる」ことを目標に、授業改善を話し合う場を設け、教員相互で多くの意見交換をすることができた。電子教科書を毎回の授業で活用し、視覚的に分かりやすい授業を展開することができた。電子黒板の使用にも慣れ、クラウド活用をしながら効果的に活用ができたが、生徒と教員間、または生徒間での相互方向の効果的な活用はまだ十分ではなく、次年度の課題としていきたい。また、Canvaをさらに活用して、授業デザインを改革していきたい。</p> <p>【社会】</p> <p>担当クラスでのNIE活動を実施した。新聞への投稿や「天声人語」の見出しづくりなど校外への発信に努めた。</p> <p>【理科】</p> <p>理科室の備品補充などの確認事項を教科内で協力して行うことができた。</p> <p>【体育】</p> <p>学校行事である、体育祭、球技大会など円滑に進めることができた。新体力測定は、短い期限の中でも実施することができた。来年度は体育祭の実施日が早まるので、カリキュラムの早期対策を整えていきたい。体育授業が事故なく実施できるよう、情報提供と情報の共有に努めた。</p> <p>【芸術】</p> <p>芸術科として非常勤講師の先生方と協力して円滑に運営できるように努めた。</p>	タブレットを使用すること、手で書くこと、どちらにもよいところがあります。書くことに工夫を加えることで、得るものが大きくなると感じています。どちらかに偏るのではなく、バランスをとることが必要でしょう。

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
学習指導・教務関係	1	学習指導	ICTを日常的に使いこなす環境を整え、授業改善に取り組めたか	B	<p>【全体・研修】</p> <p>研修を重ねることにICTへの理解が深まり、多くの教員が積極的に取り組んでいると感じている。来年度は他校での実践例を知る機会を通して、本校で使える手法がないか調べ、先生方に還元をしていきたい。教科内で生徒の現状を把握し、「生徒につけたい学力」を意識した、適切な教材開発・共有がより活発に行われてきていると感じる。得意不得意はあるものの、ICT研修等を積極的に取り入れているため、活用の意識と活用の方法について深めることができてきている。</p> <p>【電子黒板】</p> <p>学習管理システムやデジタル教科書を活用し、自分の言葉で表現したり、画像や映像での確認をしやすいしたりする機会を増やすことができた。必要に応じて電子黒板のミラーリングや、オンライン講座を行うことができた。保健の授業では電子黒板を使い、動画などを視聴させることで理解を深めさせた。電子黒板を利用し、授業で扱うトピックを日常生活とつなげることができた。電子黒板を使い、双方向のやり取りを交えた授業を行うことができた。⇨資料投影する等の活用はできたが、生徒の意見を集めたりする活用までは至らなかった。電子黒板を活用することで、他の職員との情報共有、教材共有が頻繁になり、授業展開がスムーズになってきている。</p> <p>【iPad】</p> <p>iPadがあることにより、学習管理システムやスタディサプリなどのオンライン教材の活用(家庭学習・宿題などの課題配信や提出)ができるようになった。生徒用のデジタル教科書についてもアカウントを発行したため、自宅でもデジタル教科書を使用できるようにし、音読練習などを行わせることができた。体育実技の授業では、iPadを視覚的確認に活用することができた。うまく活用ができず、他教員の力を借りることがあった。⇨iPadと電子黒板、電子教科書の使用は100パーセント。</p> <p>【課題】</p> <p>ICTの活用方法や使用頻度には、教員間での個人差があるため、引き続き研修等でのスキルアップを図る必要がある。個人としてもより有効的で画期的なICTの活用方法を模索していきたい。ICT活用は、生徒の成績をあげてこそである。目的に合った教材を作り、授業を展開できるようにしたい。タブレットに関して、生徒の良くない使用が目立ってきているので、指導方法を検討し、正しい使用になるよう啓発指導に力を入れたい。タブレット利用は、音声確認、調べ学習などにとどまってしまう。教員側の研修充実と成功事例の共有、生徒の思考を深める活用場面の明確化が不可欠である。ICTを「使うこと」自体を目的とせず、対話や探究を促す手段として位置づけることで、授業改善につなげていく必要がある。発音練習や発音矯正に関して、ボイスレコーダーなどで録音をさせ、発音の確認などをしたかったができなかった。電子黒板の活用はかなり慣れてきているが、まだ相互の活用、という点までには至っていない。ICTがむしろ学力を下げているという報道を耳にすることがあるので、(フィンランドや韓国)、効果的な活用法を研究していきたい。</p>	<p>小学校では、タブレットを使用するようになって、学習ツールとして非常に有効な手段だと実感しています。学習ツールとして有効に機能しているのか、学校の状況を知りたい。→教員によって、タブレット、電子黒板の使用技術の差があり、双方向で使いこなせている教員とそうではない教員がいます。</p> <p>小学生はロイロノートを積極的に利用し、クラスの仲間がどのような考えを持っているのかがすぐわかります。自分の考えを表現するという点で、中学・高校ではどうでしょうか。→小学生は自分の意見をどんどん言えますが、中学生になると、周りの目が気になり発言が消極的になることもあります。周りからの後押しがあれば、発言できる生徒もいます。発言できるようになる工夫が必要でしょう。</p>
	2	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	B	<p>【良かった点・心掛けている点】</p> <p>生徒の平素の学習成果をみとめるための妥当な「みとり」材料が各教科で出来上がってきている。現在はその内容の改定時期にあり、より妥当で効果的なものにするための取り組みを行っている。</p> <p>生徒の実態や単元の性質に合わせて評価物を変えたり、授業での班活動や実験を取り入れるように意識して取り組むことができた。</p> <p>毎年、学年末に自身の授業アンケートを実施し、改善点など確認するようにしている。</p> <p>家庭学習時間の確保のために課題を多く出し、学力向上に繋がられている。</p> <p>丁寧に説明すること、生徒の声を拾い上げること、教科書以外の例を挙げて学習を日常生活とつなげることを多く取り入れながら指導をした。</p> <p>「何のための学びなのか」に気づかせることを大切にしたい。</p> <p>学びの振り返りとして、自己学習の分析を組み込んだ結果、自分の強み、弱みを理解し、次の学習へとつなげていく生徒が多く出てきた。こちらがよく準備すれば、それだけ生徒の反応がある。授業準備にどれだけ力を傾けられるかがカギなので、そこをどう工夫するかが課題である。</p> <p>AIの活用も積極的に行い、かなりの追い風となった。</p> <p>思考力・表現力の育成のためにレポート作成、感想を書かせることなど「書かせる指導」を徹底した。グループワークやプレゼンテーションの活動を通して、話し合いや課題解決のための情報収集をさせるなどの工夫が各授業で見られた。</p> <p>「積極的に褒める授業」を行うことで、自主的に英語を学ぶ姿勢を身につけさせることができた。</p> <p>『型』を教え、『型にとらわれない』指導に挑戦中。</p> <p>【課題】</p> <p>生徒が素直なので授業が大変だと思ったことはなかったが、その良さに甘えてしまい、能力の伸長につなげられなかった。</p> <p>生徒の満足度は決して高くはないと実感している。生徒への問いをもっと考えないといけない。</p> <p>単元によっては興味を持ってもらったり持ってくれなかったり差が出ていたと思う。どの単元でも楽しく学んでくれるような授業を今後展開していくようにしたい。</p> <p>生徒の満足度を高める授業づくりのための準備と他の業務との兼ね合いに苦慮している。</p> <p>学習目標を明確にし、要点を絞った授業展開や、生徒の反応を即時に取り入れる工夫が求められる。業務効率化や教材の共有を進めることで、授業準備に充てる時間を確保し、質の高い授業を継続的に実現していく必要がある。</p> <p>観点別評価導入後、毎日のように小テストや提出課題があり、生徒の疲労感が強いようで、学習意欲を引き出せているかは疑問が残る。本校の生徒は、授業規律を守り、落ち着いて授業を受けられる生徒が多いため、それぞれの教員が生徒の満足度を上げられるような、授業づくりの勉強をする必要がある。</p> <p>一部の中間・下位層の生徒たちの意欲をどう高めていくのか。</p> <p>学力向上の実感を与えるまで至っていない→基礎学力定着のための確認テストや小テストの取り組みを、より丁寧に行っていくとよいのではないかな。</p> <p>今後は「情報発信」の能力を高める仕掛けをしていきたい。</p>	<p>特に質問・意見はありませんでした。</p>

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
学習指導・教務関係	3	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	B	<p>ペア活動や班活動を意識して取り入れ、お互いに関わり合いを持たせるように意識した。生徒が自ら考えて取り組まざるを得ないような授業展開を考えていきたい。</p> <p>声掛けをして、明るく元気に取り組める環境は整えている。</p> <p>指導について悩むこともあるが、<u>担任と連携</u>を図り、問題が発生した時には生徒の話聞き1つつつ対応するようにしている。</p> <p>比較的生徒は落ち着いた授業態度で授業に臨んでいる印象である。</p> <p>私語や居眠りをする生徒は見られず、授業規律は概ね保たれている。</p> <p>声掛けを怠ると、許されたという感覚を生徒に持たせることになってしまう。そうならないよう、今後も<u>その場その場での声掛け</u>を励行していく。</p> <p>生徒は個々様々な事情を抱えており、必ずしも一律の状況にあるわけではない。そのような中で、お仕着せの対応に終始するなど関わり方を誤ると逆効果となることは否めない。教師の生徒理解力と対応力が試されることであると思う。</p> <p>問題があれば<u>都度、教科担当と担任、学年部が連絡、相談、情報共有</u>をしていく必要がある。</p> <p>話し合いの際に時折私語があったが、切り替えができずいつまでも私語をしている生徒に対し十分な注意ができなかった。</p> <p>タブレットを使用した授業中に、学習とは関係のない操作を行っている生徒が一部に見受けられる。学習への集中を妨げる要因となり、授業効果の低下につながりかねない。活用の自由度を保ちつつも、使用目的や時間帯を明確にし、アプリや機能の制限など適切なルールを設けるようなことが必要である。</p>	<p>タブレットは中学生は学校からの貸与、高校生は個人購入です。高校生のタブレット使用について管理はできないのではないのでしょうか。</p> <p>→高校生については、自律を期待したい。もちろん危険もありますから、心配な面もあるので、バランスが難しいと感じています。</p> <p>タブレットの使い方については、保護者にも責任があるのではないのでしょうか。家庭で、タブレットの使用について注意することも必要でしょうか。</p> <p>仕事で生成AIを使用することもあります。社会に出てから、ツールを使えないのも困るでしょう。</p> <p>→AIリテラシーについて、教員も学び、リテラシー教育を徹底したい。</p>
	4	探究活動	総合的探究の時間と系列別連携講座との結びつきを強化し、計画担当者や連携をとれたか	B	<p>何も見えない中、手探りですすめるしかなかったため、担当者同士相談しあいながら、担当の大学や短大の先生方等とも密に連絡を取り合い、進めることができた。</p> <p>探究活動は興味を引く内容が多くとても有意義な学びがあり、学んできたことの発表も積極的であった。</p> <p>昨年度と比べ、<u>連携講座と探究活動の関係性をより明確</u>にすることができた。シラバスも高校教員と大学職員が共同で作成し、内容の整理と共有が進んだ。</p> <p>外部の協力団体の協力のおかげもあり、かなり内実化されてきている実感がある。</p> <p>北街道の商店にインタビューに向くなど、<u>地域密着型の活動</u>を行うことができた。</p> <p>橋小学校との交流も継続し、充実していたと思う。</p> <p>就職指導分野の探究活動は、合同企業説明会や自己分析などハローワークやジョブステーション等の外部団体と連携した内容で、自分自身の学びにもなった。</p> <p>論文を書くための基礎知識を教え、さらに、ブレインストーミング批判的思考などの日本の義務教育や高等教育の中には組み込まれていないような内容が含まれていたが、一定の教育効果があったと感じた。それをいかに本校の教育とつなげていくかということが今後の課題であると感じた。</p> <p><u>普段の授業、行動の中に、連携講座の成果</u>を見ることがあった。</p> <p>高3の探究については、進路探究よりも社会課題の解決について取り組ませられると良いと思う。</p> <p>探究活動の指導は教員負担が大きいと感じており、外部連携先への指導依存が高まっている。</p> <p>外部の探究活動発表会に参加しているが、それに向けての指導が十分に行き渡らなかった。</p> <p>総合的な探究の時間については、人任せになって取り組めなかった生徒がいるなど、生徒の動かし方を検討しないといけない。</p> <p>活動の目的や目標、仕組みなどについて充分理解せずに指導に当たってしまっている部分がある。教員も生徒も理解した上での活動にならないと良い活動になっていかないと思う。</p> <p>総合的な探究の時間の成果を連携講座に十分にフィードバックしきれないなど、両者の結びつきがまだ弱い部分も残っている。</p>	特に質問・意見はありませんでした。

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
生徒指導・総務関係	1	生活指導	生徒指導やマナー教育などを通して、生徒の社会性や自律性を養えたか	B R6 B	学校全体で元氣よく挨拶ができない生徒が多い。人との関わりへの苦手意識、挨拶の必要性を実感する機会の不足がある。朝の声かけ運動も定期的に行ってはいるが、抜本的な解決にはなっていない。今後は教職員が率先して挨拶を行い模範を示すとともに、 <u>挨拶が人間関係を円滑にすることを体験的に学ばせる必要がある。</u> 教員間での指導の温度差が出ないように、指導基準のすり合わせを行い、足並みをそろえていきたい。 社会が求めるもの自体が、指導<支援、説諭<啓発にシフトしてきている。「生徒の社会性、自律性を養う」という目標に合うような対応をしていきたい。	教員によって指導が違うということがないようにしてほしい。何がよくて、何がよくないのか、生徒自身が考えることができるような学校になってほしい。
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B R6 B	生徒会を中心に、行事を進めるとともに、クラスでは代表委員などのリーダーが主体的に取り組めるよう、今後も教員は適宜サポートする必要がある。 今年度は、文化祭が大学と一緒にだったが、教員と生徒がコミュニケーションを図ることで、主体的に生徒を動かすことにつながった側面もあった。学習だけでは得られない達成感や協調性を育て、生徒同士や教師との関係を深め、社会性や主体性を身につける重要な機会であった。特に文化祭では大学や地域との結びつきの良さを再確認できた。 生徒自身に任せながら、教員は上手く伴走できている。 <u>生徒の成長につながるよう継続していきたい。</u>	文化祭では、PTAも協力して活動できました。文化祭だけではなく、オープンスクールデイなどの受付もお手伝いしました。
	3	生徒指導	学校での活動を通して、生徒自身が良好な人間関係を築き、充実感、満足感をえられるよう導けたか	B R6 B	生徒たちの人間関係に関して、アンテナを常に高く張り、目まぐるしく変化する生徒たちの人間関係をとらえて、クラス運営に反映させた。 カウンセラーと定期的のうちあわせを行い、担任のみで話を聞くのではなく、 <u>様々な大人からのアプローチ</u> を行い、生徒たちのSOSを聞くようにした。教員が手をかけた分だけ生徒は成長する。 清掃活動などの地味な活動でも、教員が手をかければ生徒は変わってくる。労をいとわず生徒の支援を行いたい。 行事を含め、教員側がさまざまな場面で人間関係に配慮し、生徒が安心して取り組めるようにした。それでも人間関係のトラブルは防ぎきれず、生徒の満足感を高めるためにも十分な情報共有や配慮が必要である。	相談しやすい環境というのは、生徒が先生に相談できる環境だけではなく、教員同士も、声をかけやすい環境を作ることが、生徒を育てる環境につながっていくと思います。
	4	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B R6 B	文化祭、芸術祭、体育祭の学校行事で部活動の成果を発表した部活動、様々なコンクールやオーディションに参加した部活動がある一方、活動が滞る部活動もあった。 部活動の所属に消極的な生徒が多い印象がある。夢中になれる何かを見つけられていないのではないかと感じる。	特に質問・意見はありませんでした。
	5	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A R6 B	清掃指導については、 <u>責任感を育て、美化意識を高めるためにも強化していきたい。</u> 多くの生徒が、清掃に対して前向きかつ積極的に取り組んでいる姿があるが、クラスや清掃場所、メンバーによっては、清掃できていないところもあるようだ。 まずは、 <u>担当教員がきちんと指導</u> することが求められる。 生徒への清掃指導に加え、掲示物や配布物、教室保管のものなど、常に整理整頓を行うことを心掛けた。	学校周辺もいつもきれいになっているのを見かけます。清掃指導が行き届いているのはなぜでしょうか。 →教員もともに清掃を行っています。中学生と高校生と一緒に清掃しているのも、いい影響を及ぼしているのではないのでしょうか。ただ、まだまだできると思っています。
	6	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B R6 B	避難訓練の <u>年度複数回実施、抜き打ち1回実施が定着</u> してきた。 教職員対象の防災・防犯訓練、救急救命講習も定番化している。課題は、 <u>普段から生徒に問題意識を持たせる企画を立てること</u> である。特別な機会を、というよりは、日常のHR等における身近な話材による短い講話を意識的に繰り返すほうが効果的なのかもしれない。	特に質問・意見はありませんでした。

令和7年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	B R6 B	学年ごとの親子進路ガイダンス、キャンパス見学会、常葉大学の説明会などを実施し進路意識を高めることができた。「進路の手引き」の発行、Googleクラスルームで随時、情報発信に努めた。 複雑化する入試形式に対応すべくベネッセ、リクルートなどにアウトソーシングを依頼した。 課長や業者に任せっぱなしにするのではなく、教師側も情報収集をし、自分の言葉で進路を語った方が生徒は納得感を持つようだった。	特に質問・意見はありませんでした。
	2	学力対策	基礎学力の定着と学習習慣の確立を可視化する仕組みを作れたか	B R6 C	日々、小テストや課題配信を行い基礎学力向上に取り組んだ。 普段の学習成果物、模試の成績が確認できるマナビジョンなど可視化のツールはあるものの、十分に使いこなせている教員ばかりではない。時間を工面して、研修を行いたい。 中学でもスタディサプリの活用をすすめたい。 一部の生徒ではあるが、そもそも、人の話を聞く、丁寧な字で書くという学習以前の問題もある。 ますます重要性が高まっている小論文や志望理由書指導に関しては、第一学習社、さらに特進クラスは加えて学研を取り入れた。	小学校では、毎日日記を書かせています。子どもたちがデジタルの中にのめりこんでいく流れを、いかに違う形でアウトプットするかが、学校教育において大事だと感じています。
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B R6 C	面接週間や返却時の面談を利用し、学習アドバイスをし、夏季休暇や通常補習に反映させた。 弱点分野の確認や具体的な数値目標について、まずは教科会議で分析する時間をもちたい。	特に質問・意見はありませんでした。
	4	キャリア教育	連携講座(高校)またはキャリア講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	B R6 B	連携講座は常葉大学や外部の講師との協力ができ、内容は年々アップデートされていると感じている。 「座学」と「体験」のバランスも良くなっている。今後は高校教員の取り組みの工夫をさらに進め、本校の「目玉」になるようにアップグレードしていきたい。また来年度の1年生から2時間になる探究学習にリンクできるとよい。 高校3年でも大学生と「就職活動」について交流会を催している。このような取り組みを今後も継続、発展させていきたい。 中学の探究学習、キャリア教育は生徒たちの視野を広げ、思考力や表現力を上げている実感がある。企業との交流は社会を身近に感じさせている効果がある。	周囲に女子校があり少子化もあって、他校と差別化をはかることが必要です。その中で、大学の附属であることをさらにいかしていくのがいいのではないのでしょうか。 中高6年、そしてその先の大学をどう活用するか、工夫が必要でしょう。もっといろいろなことができるのではないのでしょうか。
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B R6 B	一斉実施のせいか漢字検定は熱心で、中学1年生は比較的合格率が高かった。 英語検定、数学検定の受験者数が低い。教科でLHR等で検定の意義やメリットを伝え奨励していきたい。	特に質問・意見はありませんでした。
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	B R6 B	年に数回の三者面接だけでは信頼関係は築けないので、日頃からこまめに保護者と連絡をとり情報共有に努めた。 中学・高校問わず、丁寧な指導や対応を学校の特色としていきたい。	保護者との連絡を密にしてほしい。いい意味でのアットホームな学校であってほしいと思っています。